

令和元年度（2019年度）学校評価表

熊本県立天草拓心高等学校 令和元年度（2019年度）学校評価表

1 学校教育目標
各学科の専門的・先進的な教育活動を通して探求を深め、未来を切り拓く創り手として必要な資質と能力の育成を目指す。

2 本年度の重点目標
<p>(1) 確かな学力を育成し、生徒一人ひとりに応じた指導の充実を図る。</p> <p>ア 「主体的・対話的で深い学び」を通じて自ら課題を解決するための思考力、判断力、表現力等を育む。</p> <p>イ 生徒の特性等を把握し、きめ細やかな教育を行う。</p> <p>ウ キャリア教育を通して社会的・職業的に自立できる態度を育む。</p> <p>(2) 豊かな情操と道徳心を培う</p> <p>ア 命を大切にす心や寄り添う心を育み、他者と協働できる態度を養う。</p> <p>イ 規範意識を身に付け、善悪を判断し自らを律する力を養う。</p> <p>ウ 我が国の伝統と文化を尊重する態度と、グローバルに対応できる能力を育む。</p> <p>(3) 心身の健康を自己管理する態度を養う。</p> <p>ア 望ましい食習慣を含めた生活習慣を確立するための態度を養う。</p> <p>イ 情報モラル教育を推進し、より良い言語環境を通じて人権尊重の精神を育む。</p> <p>ウ 適正で魅力ある部活動を推進する。</p>

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	学校経営方針	・学校経営上の課題を踏まえた経営方針を全教職員に周知徹底し理解させる。	・全教職員に学校経営方針を認識させ、組織の一員として、すべての教育活動での実践を目指す。	・合同の職員会議や研修を通して校舎間の連携をさらに深め、魅力ある教育活動の実践を図る。各主任主事が日程の調整及び連絡体制を確立する。	A	・合同職員会議や職員研修等で連携を深めることができた。今後も連携を密にし、日程の調整を早めに行い、充実した学校経営に努めていきたい。
	開かれた学校づくり	・学校経営方針に沿った魅力的教育活動を発信する。	・中高連携や高大連携及び企業連携を通して本校教育の魅力を発信する。	・地域連携事業の推進とHPを利用した情報発信による魅力創造。 ・地域交流を通して、地域住民に生徒の活躍する姿を見ていただく機会を増やす。	B	・HPや体育大会等で地域の方々へ生徒の姿を発信することができた。中学生への情報発信が今後の課題である。
	学校改革	・生徒と向き合う時間の確保。 ・教職員の働き方改革。	・朝会及び放課後の会議数等の減少。 ・ライフワークバランスを考慮した働き方の見直し。	・朝会の週1回の実施で学年連絡の充実とSHRにおける時間の確保。 ・各主任主事と連携をして、校務分掌におけるOJTに積極的に取り組む。 ・部活動指導の負担軽減。	A	・週1回の朝会も定着し、教職員がSHR等に時間をかけることができるようになった。 ・部活動指針を策定し、平日1日、休日1日の休養日を確保した。

学力向上	授業の工夫・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わかりやすい授業の実施と授業研究。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員研修によって共通理解をし、公開授業週間において、教科毎に授業研究会の充実を図る。</li> <li>・生徒による授業評価は4段階評価のうち平均3.2以上とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期毎に授業デザイン会（授業の進め方について検討）、授業見学、授業振り返り会を実施し、授業改善に取り組む。</li> <li>・新学習指導要領に向けて、本校独自の評価・測定法を検討する。</li> <li>・特別支援教育コーディネーターと連携し、各教科で授業のUD化をすすめる。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公開授業期間中、教科の垣根を越えて見学を行い、授業改善に取り組めた。</li> <li>・授業評価は平均3.5以上であった。</li> <li>・目標の明示など授業のUD化に取り組めた。</li> </ul>
キャリア教育(進路指導)	職業観・勤労観の育成と進路意識の向上並びに進路に関する諸能力育成を目指したキャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路情報の発信や進路希望等の相互理解ができていくか。</li> <li>・校舎間の指導方針のずれがないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭、学校、関係機関との連携を強化し、個々の生徒に適した指導を充実させる。</li> <li>・進路指導部や学年部の連携を綿密に行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者への進路情報提供を学期毎に実施する。</li> <li>・進路希望調査や模擬試験等を集約し、自己の現状を把握し、目標達成のためのプロセスを設定させる。</li> <li>・連絡会や打ち合わせ等を月1回以上実施する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路ガイダンスや地元企業説明会等のキャリア教育情報を提供することができた。保護者の参加率向上が課題として残った。</li> <li>・共通の試験や面談等の実施で学力面や職業適性を理解させることができた。</li> </ul>
生徒指導	規範意識の醸成～他律から自律へ～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な生活習慣の定着について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶の励行</li> <li>・自ら挨拶のできる生徒の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登校指導時の挨拶励行。(生徒会活動含)</li> <li>・教職員及び生徒間の挨拶に対する意識調査を行い、改善に繋げる。</li> <li>・毎朝の登校指導を行い、継続的な指導を実践する。</li> <li>・スマホ等の依存からくる生活の乱れを全校集会やHR等を利用して改善する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎朝の登校指導を継続して行うことができた。</li> <li>・意識調査を行うことができなかった。全校集会等を利用して、スマホ等利用の仕方については周知が図れた。</li> </ul>

生徒指導	規範意識の醸成～他律から自律へ～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な生活習慣の定着について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・清々しい整容</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年に7回の整容指導を実施する。</li> <li>・生徒自身の整容面への意識向上を目的とする主旨を踏まえ、教職員間の連携を図りながら、日常の整容意識により力を入れる。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整容指導の不合格者も少しずつ減少し、再指導を粘り強く継続して行ったことで、生徒の意識も向上した。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通ルールの遵守</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車・原付の乗車マナーの指導徹底。</li> <li>・交通違反件数の削減（昨年比10%減少）</li> <li>・交通事故件数の削減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車通学生及び原付通学生に対しての講習会の実施。</li> <li>・通学生集会や講演会、教材等を活用し命の尊さについて考える機会をつくる。</li> <li>・交通安全に関する標語やポスターの掲示を行うなど、啓発活動を活発にする。</li> <li>・交通事故現場での対応マニュアルを生徒へ配付する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は自転車原付による事故が、19件（通学外2件含）と多発し、臨時の交通指導の集会を数回も実施した。</li> <li>・交通違反の件数は昨年3件から1件に減った。</li> </ul>
人権教育の推進	差別やいじめのない学校・学級づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の人権感覚を身につける教育活動を推進することができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常勤教員の50%以上が校外研修に参加するなどして、教員の人権教育への実践力を高めて教育活動にあたる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校外研修の年間参加計画を作成する。</li> <li>・「人権教育の指導方法等の在り方についての『第三次とりまとめ』」の校内研修を行い、教科等の授業における人権教育の実践力の向上をはかる。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5月に年間計画を作成し、計画的に校外研修に参加できた。教職員の校外研修参加率（両校舎平均）は64%であり、加えて適宜復講を行うことができた。</li> <li>・授業における人権教育の事例集を研修で作成するとともに、事例集を活用した実践期間を設け、人権教育の日常化につながった。</li> </ul>

<p>人権教育の推進</p>	<p>「命を大切に する心を育む 指導」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権LHRなどを通して命を大切に する心を育む ことができた か。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権教育LHRの質向上 (昨年度指導 案を1カ所以 上改善して実 施)。</li> <li>・「命を大切 にする心を育 む指導」の各 クラス実施率 を100%に する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過年度の人権教育LHR指導案の整理、本年度の指導案の検討を学年会、人権教育推進委員会において実施する。</li> <li>・生徒による人権標語の作成を行う。</li> <li>・校内研修において、人権教育を学校全体で取り組む必要性を周知する。</li> </ul>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全てのLHRの指導案に修正が加えられ、専門家からの講話、DVD視聴、グループワークなど、目的に応じた手法でLHRを実施できた。</li> <li>・全校生徒が作成した人権標語をもとに、生徒主体の人権を守る取組を実施できた。生徒による月毎の人権標語を用いた啓発活動、書道部による掲示物の作成を行った。</li> <li>・校内研修の度に周知することができた。理科、地歴公民科等においては、人権教育LHRと関連づけた授業が行えた。</li> </ul>
<p>いじめの防止等</p>	<p>早期発見・早期対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談できる環境づくり組織的な対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談体制の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人面談期間を活用し、生徒が相談しやすい環境や機会をつくる。</li> </ul>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎学期の始めに面談週間を設定し、担任が時間にゆとりを持って生徒と関わる機会をつくった。集会でも全校生徒に呼びかけて、相談を促した。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめに関するアンケートの実施</li> <li>・スクールサインの有効活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年に3回いじめに関するアンケート調査を実施し、早期に発見し対応する。</li> <li>・スクールサインに対しての迅速な対応を行い、早期対応に繋げる。</li> </ul>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめの早期発見のために年間を通して個人面談、アンケートの実施を行うことができた。</li> <li>・スクールサインの投稿については迅速に対応することができたが、匿名性を重視するための対応が非常に難しかった。次年度の課題である。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織的な対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ防止対策会議の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談部など他部署と連携を深め、いじめ防止対策会議を適宜開催し、対応策、未然防止策を全職員で共有する。</li> </ul>	<p>A</p>	<p>年3回（3回目は3月実施予定）実施し、外部専門家の意見を取り入れながら、充実した議論や対策案を考える機会となった。</p>

いじめの防止等	いじめ根絶のための啓発活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権感覚を育み、良好な人間関係構築のための支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的行動指標や標語、ポスター等の作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集会で本校のいじめ根絶宣言を全校生徒に周知する。またいじめ根絶に向けたポスター掲示や標語の募集を行い、生徒自らが人権感覚を磨く機会をつくる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心のアンケートの回答からも生徒の人権感覚を磨く必要性を感じた。いじめ根絶宣言や標語以外にももっと、具体的な教育的実践が必要である。</li> </ul>
読書指導	豊かな心の育成を目指した読書活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館利用率（図書の新着数）の向上。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒貸出数1人あたり年平均本渡校舎6冊、マリン校舎12冊を目指す。（実状にて設定）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝読書の時間確保、図書館便りの発行、図書館における読書環境の整備、生徒図書委員会活動の活性化。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本渡校舎は目標貸出数にわずかに届かない見込みだが、マリン校舎では達成できる見込みである。さらなる工夫を図りたい。</li> </ul>
安全教育	事故防止の徹底と安全な避難	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危機管理マニュアルに沿った取り組みと校内の安全点検。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全点検の徹底</li> <li>・防災意識の高揚</li> <li>・災害時迅速な連絡周知</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全点検を学期1回実施、改善箇所は迅速に対応する。</li> <li>・防災避難訓練、防災職員研修により防災意識を高揚させる。</li> <li>・緊急メールの登録率を向上させる。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全点検は計画通り実施できた。次年度は防災の視点を盛り込んだ点検項目を追加し実施する。</li> <li>・ブライド型シェイクアウト訓練を実施し良い研修となった。</li> <li>・2学年は福島県への修学旅行を実施し、防災教育の充実を図ることができた。</li> </ul>
地域連携 (コミュニティ・スクールなど)	保護者や地域等などとの連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の教育資源と学校の教育資源を相互に生かす。</li> <li>・育友会及び同窓会との連携。</li> <li>・広報活動の充実。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の産業振興に協力、施策の実現をめざす。</li> <li>・育友会、同窓会と連携し、教育活動の支援を頂く。</li> <li>・広報委員会と協力し、魅力を発信する</li> <li>・コミュニティ・スクール連絡協議会の実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域関係機関と意見交換会を実施する。</li> <li>・育友会、同窓会と連絡を取り学校行事等への参加者を増やす</li> <li>・魅力ある教育活動の様子をホームページ等で地域へ発信する。</li> <li>・防災型コミュニティ・スクールから総合型コミュニティ・スクール連絡協議会へ移行できるように準備を進める。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域との協働による高等学校教育改革推進事業やSBPの取組みにより地域資源活用や各所との連携が図れた。</li> <li>・上記の活動と連携することで総合型CSへの準備が整った。</li> <li>・HPでの学校魅力発信が増加した。</li> </ul>